

2018.12.25～26 中3 アドバンス立命館コース集中講座「ディベート演習」

70分×2コマの国語講座の時間を、本格的なディベート体験演習に充てました。

AR ディベート演習 タイムテーブル

【第1講】12/25		所要時間		
①	「ディベートとは」	25分		
②	テーマの提示	5分		
③	グループ分け	40分		
④	情報収集・戦略会議			
【第2講】12/26		所要時間		
①	情報収集・戦略会議	30分		
②	ディベート	肯定側	計33分	
		立論		5分
		準備時間		1分
		質疑		2分
		準備時間		1分
		立論		5分
		準備時間		1分
		質疑		2分
		準備時間		1分
		第一反駁		3分
		準備時間		1分
		第一反駁		3分
		準備時間		1分
		第二反駁		3分
準備時間	1分			
第二反駁	3分			
③	審査	2分		
④	判定・講評	5分		

一般的な定義では
 「ある特定のテーマの是非について、2グループの話し手が、「肯定側」・「否定側」に分かれ、第三者（「審判」）を説得する形で議論を行うこと」
 たとえば
 「日本は高速道路の建設をやめるべきだ」というテーマに対し、「肯定側」はそれによっていかに素晴らしいことが起こるのかを訴え、逆に「否定側」はそれによっていかに恐ろしい問題が起こるのかを訴える。

1. ディベートとは

▶「立論」
 自分たちの立ち位置（肯定／否定する理由）を明確にする。
 ここで触れなかったことは、あとから「理由」にはできない！

▶「質疑」
 立論の中身に対して相手側からの質問に回答する。これは議論ではなく、のちの「反駁」に備えた情報（相手の立論の弱点）収集である。
 回答がうまくできなければ、そこが弱点となる！

▶「反駁」
 互いの立論をもとに反論（攻撃・守り・比較）をする。
 第一反駁で触れなかった相手側の「理由」は、強めなことになるので、もう第二反駁でも触れてはいい！

3. 立論・質疑・反駁とは

ディベートテーマは「年賀状の習慣・制度の撤廃」。

簡単なレクチャーとグループ分けのあと、「肯定側」と「否定側」に分かれ、タブレットを使った論拠情報の収集や戦略会議など、本番の議論に向けて入念な準備を進めました。



左の写真が本番の様子です。ディベート甲子園の公式ルールにできるだけ近い、厳密なタイムテーブルにしたがって立論、質疑、反駁を交互に進め、たった一回のレクチャーや短い準備時間にもかかわらず、ルールをよく理解し、激しい論戦を繰り広げました。

国語科教員 2 名による審査・講評を経て、今回のディベートは、否定側、つまり年賀状の習慣・制度の存続派の勝利となりました。

論戦のスキルは、今後のあらゆるライフステージで活かされるものになるので、これからも磨き続けてほしいと思います。お疲れさま！